

## 資 料

## 保育所における看護師による医療的ケアの業務分析

恩田 清美<sup>1)</sup>, 上松 恵子<sup>2)</sup>, 中垣 紀子<sup>3)</sup>

## 〔論文要旨〕

医療的ケア児を保育する保育所で看護師が行う医療的ケアの内容と、実施時間を明らかにすることを目的とし、複数の医療的ケア児と看護師がいる保育所 3 か所の看護師 23 人を対象に 10 日間に行った医療的ケアの内容と、実施時間を記録した。医療的ケア児の疾患、障害や必要なケアにより実施したケアの内容と、時間数は異なっていた。呼吸管理、経管栄養の管理、ストーマ管理の行為回数と実施時間が多かった。2 つ以上のケアを併行したイベントは 184 回あった。また、ケアが重複した時間帯をみると、8:00~9:45 の登園、11:00~11:45 の昼食前、14:30~15:45 の午睡から覚醒しておやつまでの時間帯に複数のケア行為が重複したイベントが多かった。看護師が複数勤務していても 1 人の医療的ケア児に複数の疾患や障害があれば必要なケア行為も複数にわたるため、ケア行為が重複したり、そのような重複が集中する時間帯も生じていた。

Key words : 医療的ケア児, 保育所, 看護師, 医療的ケア業務分析

## I. 目 的

医療的ケア児（以下、医ケア児）は 2018 年度で推計 19,712 人と年々増加しているが、保育所等における医ケア児の受け入れは、2019 年度は 329 施設で 366 人と報告されている<sup>1)</sup>。医ケア児が社会の中で成長発達し、家族も社会参加できることは子どもと家族の QOL の向上につながる。近年、保育所での医ケア児の受け入れも始まっている。しかし、事例が少なく現状が十分把握できていない現状がある。また、保育所で医療的ケアを実施している看護師のケア行為の内容や量を明らかにした研究は、医中誌で「医療的ケア児」「保育所」「看護師」「業務」の語で検索した結果、2016 年から 2021 年の 5 年間で 3 件であった。医ケア児の

保育所での受け入れの課題として、看護師を支援する体制が整っていないことや、2 人の看護師でも対応が厳しく看護師が 3 人は必要であることなどが報告されている<sup>2)</sup>。医ケア児を保育する保育所での看護師のケアの現況を明らかにすることは、看護師や認定特定行為業務従事者資格を有する保育士の人員配置や勤務体制、支援体制を考えるうえで有用である。そこで我々は、医療的ケアを実施している保育所における看護師のケア行為の内容と量を明らかにすることを目的とした。

## II. 対象と方法

本研究において以下の通り用語を定義した。

- 保育所看護師：保育所に勤務する看護職で保健師、

An Assessment of the Medical Care Tasks Performed by Nurses at Nursery Schools  
Kiyomi Onda, Keiko Uematsu, Noriko Nakagaki

〔32104〕

受付 20.12.22

1) 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻家族看護学分野（研究職）

採用 22. 9.27

現 神奈川県立短期大学看護学科（研究職）

2) 和洋女子大学看護学部看護学科（研究職）

3) 和洋女子大学看護学部看護学科（研究職）

現 医療創生大学看護学部看護学科（研究職）

助産師，看護師など。

- 医療的ケア児：日常的な医療的ケアと医療機器による支援が必要で，気管切開部の管理，人工呼吸器の管理，吸引，酸素療法，胃瘻<sup>ろう</sup>・腸瘻・胃管からの経管栄養，中心静脈栄養，導尿，服薬管理などを受けている児とした。なお，大島分類の1～4に相当する児は除いた。

- 医療的ケア：呼吸管理，血糖の管理，経管栄養の管理，ストーマ管理とした。

- 呼吸管理：気管内吸引・気管内吸引の介助・鼻口腔吸引・人工呼吸器の装着・気管切開部のケア・パルスオキシメータの装着と測定・プローブの取り替え・人工鼻の交換・吸入の準備・吸入・吸入の見守り・酸素ボンベの交換・酸素チューブの交換・酸素残量の確認・酸素流量の確認・経鼻カニューレ交換とした。

- 血糖管理：血糖測定・血糖確認・血糖の測定と確認・血糖測定の見守りとした。

- 経管栄養管理：胃内容物の残量確認・経管栄養の注入準備・経管栄養の注入介助・ボトルによる注入・シリンジによる注入・注入の見守り・注入後の片付け・経鼻栄養チューブの再固定とした。

- ストーマ管理：ストーマの交換・ストーマケアとした。

## 1. 研究対象者

医ケア児と重症心身障害児（以下，重心児）を保育している保育所で医ケア児のケアを担当している看護師。保育所 A：7人，保育所 B：5人，保育所 C：11人，合計 23 人であった（以下，保育所 A を A，保育所 B を B，保育所 C を C とする）。3 施設とも東京都内にあり月曜日から金曜日まで開園。休園日は土曜日・日曜日・祝日・年末年始。開園時間は，8：00～18：30，定員は，重心児 5 人と医ケア児 10 人であった。2020 年 1 月 31 日時点の保育実施状況は，A が重心児 4 人，医ケア児 7 人であった。B が重心児 1 人，医ケア児 11 人で医ケア児のうち医療的ケアがない子どもは 3 人であった。C が重心児 6 人，医ケア児 2 人であった。看護師の勤務状況は，A は，週 5 日の常勤者が 6 人，パートタイムが 2 人（週 4 日：1 人，週 2 日：1 人）であった。B は，常勤者が 5 人（週 5 日：2 人，週 4 日：3 人），パートタイム（週 4 日）が 1 人であった。C は，常勤者が 5 人（週 5 日：4 人，週 4 日：1 人），パートタイムが 6 人（週 4 日：1 人，週 3

日：1 人，週 2 日：3 人，週 1 日：1 人）であった。

## 2. 調査期間

調査期間は，対象施設が月～金曜日までの 5 日間の開園であること，5 日間の場合は体調不良等で登園できない子どもがいる可能性があること。また，研究対象者の負担を考慮し，2020 年 1 月 14 日～27 日の保育所の休園日を除く 10 日間とした。

## 3. 調査方法

事前に筆頭著者が保育所 A・B・C を見学し医療的ケアの実施状況を観察した結果，1 回の医療的ケアにかかる時間はおおむね 15 分程度であったことから，ケア行為を記録する時刻は 15 分単位に区切った。ケアの内容として吸引が多かったため，気管内吸引と鼻口腔吸引の項目を設けた。1 回の吸引にかかる時間を 5 分とし該当する時間帯に項目にチェックを入れるような記載方法とし，5 分以上要する場合はかかった時間を分単位で記載する形とした。調査票は 15 分ごとに区切った時刻を縦軸に，日付・勤務時間・担当クラスを横軸にし，1 枚に 5 日分の回答を記載できるようにした。研究対象者の匿名性を保つため調査票には番号を付け，同じ研究対象者が同じ番号を付けた調査票に 10 日間（2 枚）記載した。

研究対象者は，調査票に勤務日の勤務時間と勤務クラス（医ケア・重心児）を記載した。休日は勤務時間の欄に休日と記載した。ケアを実施するごとに該当する時刻に実施したケアの内容と，ケア行為にかかった時間を分単位でカッコをつけて記載した。状況に応じて重心児と医ケア児の両方のケアを実施する保育所（A）と，担当するクラスを分けず看護師全員がケアを実施している保育所（B，C）があったため，医ケア児に行ったケアには印をつけた（図 1）。また，各施設の園長は保育する医ケア児の状況，保育時間内に実施した医療的ケアの内容，1 日あたりの保育児童数と勤務している看護師の人数を別紙に記載した。

## 4. 分析方法

筆頭著者が記入された調査票にある研究対象者の印を基に重心児のケアと医ケア児のケアを分けた。著者 3 人で，医ケア児に実施したケア行為のうち医療的ケアの内容を分類した。まず，筆頭著者が保育所ごとに実施した 1 日単位で医療的ケアの内容と実施した回

月日	1月14日			1月15日			1月16日			1月17日		
勤務時間	休み			8:30~17:30			7:50~16:50			7:50~16:50		
担当クラス				重症心身障害児			医療的ケア児			医療的ケア児		
時刻	鼻口腔吸引	気管内吸引	処置 (かかった時間:分)	鼻口腔吸引	気管内吸引	処置 (かかった時間:分)	鼻口腔吸引	気管内吸引	処置 (かかった時間:分)	鼻口腔吸引	気管内吸引	処置 (かかった時間:分)
7:45												
8:00							✓					
8:15									トイレ介助(10)	✓	✓	酸素ボンベ交換(5)
8:30						ポジショニング(5)		✓	吸入(5)			
8:45				✓		注入準備(10)						注入(30)

図 1 医療的ケアの実施チェック票 (記載例)

数・かかった時間と複数のケア行為が重複した状況を集計した。つぎに、10日間の医療的ケアの内容別にかかった時間と実施した回数、および、医療的ケアの時間帯別のケア行為の重複した状況を集計した。その後、著者3人で医療的ケアの内容によるかかった時間や実施した回数、および、重複したケア行為の内容や回数の時間帯による特徴を分析した。

5. 倫理的配慮

本研究は、複数の保育所を運営している NPO 法人団体 1 団体に研究目的、方法及び研究協力の任意性と同意撤回の自由、データの取り扱いや研究結果の公表時の個人情報保護について文書と口頭で説明し同意書を得た。つぎに、保育所 3 か所の園長に研究目的、方法及び研究協力の任意性と同意撤回の自由、データの取り扱いや研究結果の公表時の個人情報保護について文書と口頭で説明し同意を得た。各保育所の看護師には園長が文書と口頭で説明し調査票への記載を依頼した。同意書した看護師に調査票への記載を依頼した。

本研究は和洋女子大学人を対象とする研究倫理委員

会 (承認番号:1929) と、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会 (承認番号:2020210NI) の承認を得て実施した。なお、保育所では調査実施の公告は実施していない。

III. 結 果

1. 医ケア児の状況

医ケア児の有する疾患や障害、保育を受けている間に必要とする医療的ケアは多岐にわたり、1人の医ケア児に複数の疾患や障害があり、各施設とも疾患や障害は子どもごとに異なっており、複数の医療的ケアが実施されているという例が多かった。Aの医ケア児は7人で、気管切開を受けた児が2人、人工肛門・尿管皮膚瘻を造設した児が2人いたため、吸引やストーマケアなど複数の医療的ケアが併行して行われていた。保育を受けている間に行われるケアは1人に対して2~4種類あった。実施した医療的ケアは、鼻口腔吸引が4人と多かった。Bの医ケア児は11人で、気管切開を受けた児が3人、経鼻栄養チューブを挿入している児が3人おり、そのうち2人はその両方を受けて

表1 保育を受けている医療的ケア児の状態と必要なケア

子どもの状況	保育所にいる間のケア内容
保育所 A	鼻口腔吸引, 入眠中パルスオキシメータ装着
気管切開 (絆創膏閉鎖中)	気管切開部ケア, 鼻口腔吸引, 入眠中パルスオキシメータ装着
人工肛門・尿管皮膚瘻造設	人工肛門ケア, 尿管皮膚瘻ケア, テンコフカテーテル管理, 血圧測定 (登園時)
人工肛門・尿管皮膚瘻造設	人工肛門ケア, 尿管皮膚瘻ケア, 両下肢装具装着部皮膚ケア
胃瘻造設	胃瘻ケア, 水分注入×1回, 注入×2回, 鼻口腔吸引
	血糖測定 (食前), 低血糖管理
気管切開	気管切開部ケア, 気管内吸引, 鼻口腔吸引
保育所 B	酸素投与, パルスオキシメータ測定×3回+適宜, 吸入, 鼻口腔吸引 (感冒罹患時), 内服
気管切開, 経鼻栄養チューブ挿入	気管切開部ケア, 酸素投与, 気管内吸引・鼻口腔吸引, 注入×3回, 吸入×1~2回 軟膏塗布, 内服, パルスオキシメータ測定×3回+適宜
気管切開, 経鼻栄養チューブ挿入	気管切開部ケア, 気管内吸引, 鼻口腔吸引, 注入×3回, 吸入×1回, パルスオキシメータ測定×3回
経鼻栄養チューブ挿入	注入×適宜, 胃残確認×4回, グリセリン浣腸適宜, ガス抜き適宜
	軟膏塗布×6回
	痙攣観察
	内服
気管切開	気管内吸引・鼻口腔吸引, 吸入×1回
	なし
	なし
	なし
保育所 C	人工呼吸器装着, 気管内吸引, 鼻口腔吸引, 注入×3回, 吸入, 入眠時パルスオキシメータ装着
気管切開, 胃瘻造設	
気管切開, 経鼻栄養チューブ挿入	気管内吸引, 注入×2回

いるため、吸引や吸入、パルスオキシメータの装着、経管栄養の注入などのケアが併行して行われていた。保育を受けている間のケアは1人に対して1~8種類あった。実施した医療的ケアは、鼻口腔吸引が4人、吸入が4人、パルスオキシメータの装着・測定が3人、経管栄養の注入が3人であった。なお、11人中3人については保育を受けている間の医療的ケアの実施はなかった。Cの医ケア児は2人で、気管切開と胃瘻の造設が1人、気管切開と経鼻栄養チューブの挿入が1人であり、吸引と経管栄養の注入が併行して行われていた。保育を受けている間の医療的ケアの内容は、1人が6種類、もう1人が2種類であった。そのうち気管内吸引と経管栄養の注入が併行して行われていた (表1)。

## 2. 10日間の医療的ケア児の登園人数と看護師の人数

Aでの1日あたりの登園児数は、医ケア児は5~7人 (平均5.7人)、重心児は2~4人 (平均2.8人)であった。この間の看護師の人数はパートタイムも含め

て1日あたり5~7人 (平均6.2人)で、重心児と医ケア児のクラスにそれぞれ2~3人ずつ配置されていた。Bでの1日あたりの登園児数は、医ケア児は5~8人 (平均6.3人)、重心児は0~1人で、この間の看護師の人数はパートタイムも含めて1日あたり4~6人 (平均4.8人)であった。Cでの1日あたりの登園児数は、医ケア児は1~2人 (平均1.7人)、重心児は3~6人 (平均5.0人)であり、この間の看護師の人数はパートタイムも含めて1日あたり6~8人 (平均6.9人)あった (表2)。

## 3. 10日間の医療的ケアの実施状況

Aでの10日間の医療的ケアの実施回数は、血糖測定が必要な医ケア児がいたことから、血糖管理が112回 (60.9%)と最も多かった。人工肛門・尿管皮膚瘻を造設した医ケア児が2人おり、排泄毎にストーマケアを実施するためストーマ管理が31回 (16.8%)と2番目に多かった。医療的ケアにかかった時間も血糖管理が645分 (43%)と最も多かった。経管栄養の管理

表 2 10 日間に登園した子どもの数と勤務していた看護師の数 (単位: 人)

月日 (曜日)	保育所 A			保育所 B			保育所 C		
	重症心身障害児と医療的ケア児の 担当を分けている			重症心身障害児と医療的ケア児の担当を分けず合同でケアを実施					
	重症心身 障害児数	医療的 ケア児数	看護師数 (医療的ケア児 担当看護師数)	重症心身 障害児数	医療的 ケア児数	看護師数	重症心身 障害児数	医療的 ケア児数	看護師数
1/14 (火)	2	7	7 (3)	0	7	4	5	2	7
1/15 (水)	3	6	7 (3)	0	8	4	5	2	7
1/16 (木)	4	6	7 (3)	0	7	5	4	2	6
1/17 (金)	4	6	6 (3)	0	7	6	6	1	7
1/20 (月)	3	6	6 (2)	0	8	5	5	2	8
1/21 (火)	2	5	7 (2)	0	5	4	6	2	6
1/22 (水)	3	5	5 (2)	1	5	4	5	2	6
1/23 (木)	3	5	6 (2)	1	6	5	6	2	8
1/24 (金)	2	5	5 (2)	1	5	5	5	1	6
1/27 (月)	2	6	6 (3)	1	5	6	3	1	8
1日平均人数	2.8	5.7	6.2	0.4	6.3	4.8	5	1.7	6.9

表 3 10 日間に実施した医療的ケアの実施回数とにかかった時間

項目	保育所 A				保育所 B				保育所 C			
	回数 (回)	割合 (%)	かかった 時間 (分)	割合 (%)	回数 (回)	割合 (%)	かかった 時間 (分)	割合 (%)	回数 (回)	割合 (%)	かかった 時間 (分)	割合 (%)
血糖の管理	112	60.9	645	43	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸の管理	25	13.6	125	8.3	388	79.2	2,335	46.5	19	38.8	110	27.2
経管栄養の管理	16	8.7	435	29	102	20.8	2,685	53.5	30	61.2	295	72.8
ストーマの管理	31	16.8	295	19.7	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	184	100	1,500	100	490	100	5,020	100	49	100	405	100

はボトルでの注入に時間を要するため、経管栄養の管理が 435 分 (29%) と 2 番目に多かった。医ケア児への医療的ケア以外のケアは、与薬・嘔吐対応・体温測定・けがの処置などがあった。また、保育活動への参加や見守り、午睡の見守り、食事介助、オムツ交換、トイレ介助、環境整備、保護者への対応、ミーティング、記録などがあった。B での実施回数は、気管切開をしている医ケア児が 3 人いたため、呼吸管理が 388 回 (79.2%) と最も多かった。次いで経管栄養の管理が 102 回 (20.8%) であった。医療的ケアにかかった時間は、経鼻栄養チューブを挿入している医ケア児が 3 人おり、経管栄養の管理が 2,685 分 (53.5%) と多かった。それ以外のケアは、与薬、軟膏塗布、嘔吐対応、痙攣観察などがあった。また、保育活動への参加や見守り、寝かしつけ、午睡の見守り、トイレ介助、オムツ交換、ミルク介助、食事・おやつ介助、登園・

降園時の対応、保護者への対応、ミーティング、情報収集、記録・書類作成などがあった。C での実施回数は、経鼻栄養チューブを挿入している医ケア児と胃瘻の造設をした医ケア児が 1 人ずつおり、経管栄養の管理が 30 回 (61.2%) と多かった。医療的ケアにかかった時間は、経管栄養の管理が 295 分 (72.9%) と多かった。それ以外のケアは、トイレ介助・寝かしつけ・口腔ケア・補聴器の装着・飲水見守り・保護者対応、記録などがあった (表 3)。

#### 4. 10 日間の医療的ケアの重複状況

1 日のうちで医療的ケアが重複した回数をみると、A では 1~7 回と幅があった。10 日間では合計は 35 回あった。そのうち 31 回は血糖の管理であった。3 つのケア行為の重複が 3 回 (2 件の血糖の管理と 1 件のストーマ管理の重複が 2 回、血糖の管理とストーマ

表4 10日間に実施した医療的ケアの重複した件数の状況

	保育所 A	保育所 B	保育所 C	重複したケアの 件数の合計
2つのケアが重複した回数の合計	32	73	5	110
3つのケアが重複した回数の合計	3	40	1	44
4つのケアが重複した回数の合計	0	17	0	17
5つのケアが重複した回数の合計	0	7	0	7
6つのケアが重複した回数の合計	0	4	0	4
7つのケアが重複した回数の合計	0	2	0	2
重複した回数の合計	35	143	6	184

表5 10日間に実施した医療的ケアの時間帯別の重複した状況

保育所 A		保育所 B				保育所 C	
時刻	重複した回数	時刻	重複した回数	時刻	重複した回数	時刻	重複した回数
9:30	5	8:00	4	13:00	3	10:15	1
10:00	2	8:45	2	13:15	1	13:15	1
10:15	2	9:00	5	13:30	2	13:30	1
10:45	1	9:15	4	13:45	3	14:00	1
11:30	8	9:30	8	14:00	1	16:00	2
13:00	1	9:45	14	14:30	2		
13:30	1	10:00	3	14:45	8		
14:00	1	10:15	3	15:00	4		
14:15	1	10:30	5	15:15	6		
14:30	2	10:45	8	15:30	6		
14:45	2	11:00	3	15:45	5		
15:00	2	11:15	3	16:00	3		
15:30	1	11:30	8	16:15	5		
16:45	2	11:45	7	16:30	1		
17:15	1	12:00	3	16:45	2		
17:30	1	12:15	2	17:00	3		
17:45	1	12:30	1	17:30	1		
18:00	1	12:45	4				
合計回数	35	合計回数	143	合計回数	6		

の管理と経管栄養の管理の重複が1回)、2件の重複が32回(2件の血糖の管理が重複した21回、血糖の管理とストーマ管理の重複が6回、呼吸管理と経管栄養の管理の重複が3回、呼吸管理とストーマ管理の重複が1回、呼吸管理と血糖の管理の重複が1回)あった。重複した回数の多かった時間帯は、8回重複したことが1回(11:30)、5回重複したことが1回(9:30)あった。

Bでは0~23回と幅があり重複のない日は1日あった。ケア行為の重複は143回あった。呼吸管理との重複が多かった。7件の行為が重複したことが2回(7件の呼吸管理が重複したことが1回、5件の呼吸管理

と2件の経管栄養の管理が重複したことが1回)あった。6件のケア行為が重複したことが4回(6件の呼吸管理が重複したことが1回、5件の呼吸管理と1件の経管栄養の管理の重複が1回、4件の呼吸管理と2件の経管栄養の管理の重複が2回)あった。5件の重複が7回(5件の呼吸管理の重複が2回、4件の呼吸管理と1件の経管栄養の管理の重複が1回、3件の呼吸管理と2件の経管栄養の管理の重複が4回)あった。4件の重複が17回(4件の呼吸管理の重複が2回、3件の呼吸管理と1件の経管栄養の管理の重複が6回、2件の呼吸管理と2件の経管栄養の管理の重複が7回、1件の呼吸管理と3件の経管栄養の管理の重複が2回)

あった。重複した回数の多い時間帯をみると、14 件の重複が 1 回 (9 : 45), 8 件の重複が 4 回 (9 : 30, 10 : 45, 11 : 30, 14 : 45), 7 件の重複が 1 回 (11 : 45), 6 件の重複が 2 回 (15 : 15, 15 : 30), 5 件の重複が 4 回 (9 : 00, 10 : 30, 15 : 45, 16 : 15), 4 件の重複が 4 回 (8 : 00, 9 : 15, 12 : 45, 15 : 00) あった。

C では 0~2 回で重複のない日が 4 日あった。3 件の重複は 1 回あり、1 件の呼吸管理と 2 件の経管栄養の管理の重複であった。重複した件数が多い時間はなく、2 件の重複が 1 回 (16 : 00) あった (表 4, 5)。

## 5. 結果のまとめ

疾患と障害により必要な医療的ケアは多岐にわたり、医ケア児の人数、看護師の人数により、医療的ケアの内容やケア行為の重複が異なっていた。また、複数の医ケア児を複数の看護師でケアしている施設でも医療的ケアの重複することが多かった。さらに、ケア行為の重複が多い時間帯は登園時、昼食前、午睡覚醒からおやつまでの時間であった。

1 人で医ケア児の保育を担当している看護師は、継続的に安心して医ケア児の保育を行うため複数の看護師の配置を希望していると報告されている<sup>3)</sup>。看護師の疲労を低減しつつ医療的ケアを安全に、かつ、確実に実施するためには、医療的ケアの重複が予測される時間帯にパートタイムの看護師を活用するなどの工夫が有効であろう。本研究で測定した医療的ケアにかかった時間は、実施者の記憶に基づいて得たものなので、実測した時間とは異なるという限界がある。また、複数の看護師で複数の医ケア児を保育している保育所

という施設は全国的に一般的なものとは言えない。看護師の配置が 1 人という保育所や保育士が医療的ケアを実施している保育所など、施設により医療的ケアの実施状況は大きく異なると考えられるため、今後は医療的ケア児を保育している保育所の範囲を広げて医療的ケアの実施状況を明らかにしていく必要がある。

## 謝 辞

本研究にご協力いただきました看護師の皆様方および関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。本研究は、科学研究費補助金〔基盤 C 課題番号 19K10990〕の助成を受けて行った研究の一部である。

本研究について開示すべき利益相反はありません。

## 文 献

- 1) 厚生労働省. 社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 “医療的ケアが必要な子どもへの支援の充実に向けて”. 令和元年 10 月 11 日. <https://www.mhlw.go.jp/content/12204500/000559839.pdf> (参照 2020.12.07)
- 2) 厚生労働省. 平成 30 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 “医療的ケアが必要な子どもへの支援体制に関する調査研究報告書”. 2019 年 3 月. <https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000589023.pdf> (参照 2020.12.07)
- 3) 空田朋子. 保育園で医療的ケア児の保育に携わる看護師の思い. 山口県立大学学術情報看護栄養学部紀要 2019; 12: 75-80.

**[Summary]**

The authors aimed to measure contents and quantity of work among nurses working at nursery schools provided for children requiring constant medical care. We requested 3 nursery schools administered by one non-profitable organization where several nurses cared several children requiring constant medical care to record all cares for 10 days. For cares for children requiring constant medical care, 23 participant nurses filled the sheet with the time and specific care from prepared items. The care provided and the number of hours required varied according to the disease or disability the children had and the type of care needed. Respiratory care, intubation feeding management, and stoma management were performed often and required a large amount of time. In addition, there were 184 events requiring 2 or more types of care to be performed simultaneously. Such overlapped cares were observed in the daily routines such as attending school in the morning, before lunch, and awoke after a nap until a snack. Even though several nurses were working, overlapped cares were frequent in case a child with concurrent diseases required simultaneous several cares.

**Key words:** Children with medical care, Nursery school, Nurse, Assessment of medical care tasks